第 141 号

宮城県亘理農業改良普及センター
〒989－2301
亘理郡亘理町逢隈中泉字本木9
ＴＥＬ　0223－34－1141
ＦＡＸ　0223－34－1143
E-mail　wrnokai@pref.miyagi.lg.jp
http://www.pref.miyagi.jp/wr-nokai/

地道に一歩一歩

宮城県亘理農業改良普及センター　所長　**山　村　孝　志**

昨年は，新型コロナウイルス感染症に振り回された１年となってしまいました。幸いにも台風上陸などの自然災害が起こらず，米の作況指数は，宮城県102，全国99の平年並みとなったものの，感染症の影響による業務用米の需要が落ち込んだこと等により，需給バランスが崩れて米価の下落に繋がっています。また，全国的な各種イベントの自粛により花の消費が減少し，花き生産は大きな影響を受けました。感染症の一日も早い収束を願うばかりです。

さて，宮城県では，第３期みやぎ食と農の県民条例基本計画で，園芸産出額を333億円（平成30年）から620億円（令和12年）とする目標を掲げています。この目標達成の主体となるのは，ここ亘理・名取地区であります。普及センターでは，土地利用型も含めて園芸産出額の拡大に向け，農業者の皆様とともに農業経営の安定を目指して取り組んでいるところです。

まもなく，東日本大震災から丸10年の節目である「３月11日」を迎えます。これまで，皆様が心をひとつにしてあらゆることを耐え忍び，震災からの復興に取り組んできました。今年は，「丑（うし）年」。新型コロナウイルス感染症の影響で，今後も耐え忍ぶ年になるかもしれませんが，知恵と勇気を振り絞って，牛のように地道に一歩一歩突き進み，新たな亘理・名取地域の発展を目指していきたいものです。

〈令和２年度 プロジェクト課題 活動紹介〉

次代へつなぐ大規模法人の生産体制整備による経営の安定化

構成員の高齢化が進んでいる農業法人は，次世代への経営継承を課題としており，普及センターでは，人材の確保・定着にあわせて経営継承に向けた体制整備を支援しています。

（農）玉浦中部ファーム（岩沼市）は，求人に向けた会社案内の作成や求人機会を捉えた取組により人材を確保し，各種の作業履歴を確認できる経営生産管理システムの適切な運用や，経営のバトンタッチに向けたロードマップづくりに着手するなど，次世代への経営継承に備えており，普及センターではそうした取組を重点的にお手伝いしています。

また，法人の主力品目である大豆の生産技術改善による単収の向上や，農閑期における社員の働きの場を創出するための野菜栽培の導入等も支援しています。

普及センターでは，農業法人の組織運営と生産技術の両面から支援を行い，経営継承をひとつのゴールとするモデル法人の育成に取り組んでいきます。

ドローンによる農薬散布

大規模水田営農に対応した水稲直播栽培技術の向上と実践

震災後のほ場整備以降，管内で取り組みが増えている水稲乾田直播栽培技術の確立と定着に向けて，普及センターでは，昨年度から「直播栽培勉強会」を定期的に開催してきました。名取市，岩沼市，山元町の乾田直播ほ場を会場に，水稲の各生育ステージに併せて，除草剤散布や追肥作業のタイミングなど，参加者同士で情報交換し，検討を行ってきました。令和２年７月には石巻地域を視察し，現地の乾田直播ほ場の見学と生産者との意見交換を行いました。

令和３年１月15日には，これまでの勉強会を振り返る「総合検討会」を開催。生育調査結果について確認するとともに，効果的な雑草防除体系，収量確保に向けた肥培管理等，乾田直播栽培における技術課題について，東北農業研究センターから講師を招き，意見交換を行いました。

管内では，乾田直播栽培に取り組む生産者が年々増える傾向にあります。普及センターでは今後も，直播栽培の安定的な収量確保に向けた支援を継続していきます。

水稲直播勉強会「総合検討会」の様子

新品種「にこにこベリー」導入定着によるいちごの安定生産

本年３作目になる「にこにこベリー」は，管内の生産者25名と，いちご生産法人合わせて昨年の倍の面積に増加し，約６haで作付けされています。普及センター活動の中では，育苗期の肥培管理を重点的に指導し，年内収穫に向けた定植時期への誘導により，クリスマス向け出荷が実現しています。また，団地生産者を対象にいちご作付け全般の聞取り調査を行うとともに，展示ほ生産者等の収穫と調製労力の調査を農業・園芸総合研究所と共同で実施しました。これらの結果を基に「にこにこベリー」導入モデル資料を作成し，生産者の皆さんにお知らせすることにしています。

今後，生産者の年齢が上がるとともに，省力化，収穫・調製作業の一層の効率化が求められることが予想されます。これから作成する導入モデル資料を基に「にこにこベリー」を経営内容に合わせて，より早く定着できるよう支援していきます。

生産者を交えた巡回時の情報交換

「シャインマスカット」の栽培技術力向上による生産拡大

新たな地域特産品の１つとして注目されている「シャインマスカット」は，消費者からの需要が高く，直売所等でも人気の商品です。また，空きハウスの活用や複合経営の品目として，生産者の導入意向が高まっています。

今年度，当プロジェクトでは，農業・園芸総合研究所で開発した収量の安定化，品質向上，省力化等の技術習得に向けて，実証ほを設置するとともに，JAや各直売所等と連携して，研修会を開催しました。また，巡回指導による技術向上支援や，産地PRのためのシャインマスカット販売イベントを初めて開催しました。

シャインマスカット販売会

トピックス

「今から取組む経営継承」～亘理名取地区農業士会研修会開催～

令和２年12月８日，亘理名取地区農業士会主催の資質向上研修会が行われました。

社会保険労務士でもある中小企業診断士の鈴木大輔氏を講師に招き，農家の経営継承と簡易な経営分析方法について学びました。

経営継承は,「いつ」「誰に」「何を」「どのように」を順序立てて取り組み，継ぐ者と継がせる者の双方が合意の上，計画的に進めることが大切で，継承を具体的に考えるためには,「10年計画」等の作成が有効だと教えていただきました。併せて，わが家の経営を理解するために，財務諸表の簡単な読み方や各種の経営指標等を学ぶこともできました。

参加した青年農業士の方々は，自身に大きく係わる事柄ということで熱心に聞き入り，ある指導農業士の方は，経営分析のやり方を集中して聞いていました。

普及センターでは，地域にモデル事例を作ることで，円滑な経営継承に向けた取組を支援していきます。

計画的に進めよう　経営継承！

「亘理地域若手女性農業者研修会」を開催しました

女性農業者は，地域農業の発展に重要な役割を担っており，今後も多様な分野での活躍が期待されています。亘理農業改良普及センターでは，若手女性農業者を対象に，今後の農業経営に活かすことや，参加者同士の交流を深めることを目的として,「若手女性農業者研修会」を開催しました。当日は，土地利用型作物や果樹・花き栽培経営者等６名の参加がありました。

研修会では,「県産食材への思い，県産農産物を使ったメニュー開発」と題して，仙台国際ホテルのレストラン「ロジェ ドール」の佐藤料理長より，県産農産物に対する消費者ニーズやメニュー開発時に考慮すること，メインディッシュを彩る季節感のある野菜や果物の重要性等について講話をいただきました。また，交流会では，新型コロナウイルス感染症対策として，全員フェイスシールドを着用して，仙台国際ホテルの旬の食材を使ったランチメニューを堪能し，短時間ながら参加者同士の交流を深めました。

普及センターでは，今後も研修会等を通じて，若手女性農業者への支援を継続していきます。

佐藤料理長からの講話を熱心に聞く参加者

令和２年産水稲の生育と作柄

（１）令和２年産水稲の生育と作柄

■生育について

高温と低温，晴天と曇天（雨）がそれぞれ一定の期間続いては入れ替わるというような気象となりました。ほ場管理とうまくかみ合ったところは収量品質ともに例年以上を確保できましたが，必ずしもうまくいかなかったほ場も見られました。

作付期間の気象		収量・品質にプラスな面	収量・品質にマイナスな面
５月	田植え最盛期頃に低温が続く	気象変化に強い苗が生き延びた 強い苗の補償作用が期待された	気象変化に弱い苗を中心に植え傷みで茎数不足になった
６月	高温傾向で日照も多い	生育が急速に回復し，平年並みの茎数を確保できた	茎数確保時期が遅れて期待値に届かないほ場もあった
７月	低温傾向で日照少なく雨多い	過剰な籾数の抑制，過剰な中干しの回避で健全性が確保された	籾殻が小さくなってしまった いもち病の発生が見られた
８月	高温傾向だが朝晩の気温差も大	７月に葉色落ちず，稲体の消耗少なく登熟良好で粒厚を確保	籾殻が小さく割れ籾しやすいためカメムシ被害受けやすい
９月	高温傾向だが雨多く日照少なめ	ほ場の水分が保持され，登熟が良好に進展した	刈り遅れの傾向となり，品質低下が懸念された

■作柄について（令和２年12月９日 東北農政局）

区域	作況指数	篩い目 1.9mm 収穫量
宮城県中部（亘理農改管内含む）	102（平年並）	503kg/10a（前年 +12kg）
宮城県全体	102	527kg/10a

お知らせ

岩佐國男氏が農事功績者表彰と秋の叙勲でダブル受章

JAみやぎ亘理の前組合長で，いちご農家でもある山元町の岩佐國男氏が，令和２年度の公益社団法人大日本農会の農事功績者表彰「緑白綬有功章」と，秋の叙勲において「旭日単光章」をダブルで受章されました。本年度は，新型コロナウイルス感染拡大の懸念から東京での表彰式が中止となったため，11月18日（水）に宮城県庁において「伝達式」が開催され，農政部長より賞状等が伝達されました。岩佐氏の積み重ねられた功績に深く敬意を表しますとともに，今後も農業経営の発展と，地域の活性化に向け，益々，御活躍されることを祈念いたします。

岩佐氏（左から２番目）

「名取のカーネーション」産地表示販売の実証試験

生鮮食品の販売段階での産地表示は，法律で義務付けられていますが，花きは対象外であることからあまり行われてはいません。こうした中，「名取のカーネーション」産地の生産者と市場や販売店等の実需者が連携し，ステッカーシールを花束に貼る等して，産地名を表示した販売の実証試験に取り組みました。産地のブランド化を一層進めていくための有効な手段になると考えられることから，今後も生産者と実需者が連携した積極的な取り組みを支援していきます。

この印刷物は1,100部発行し，１部当たりの費用は39円です。
古紙配合率70%再生紙を使用しています